

暖冬による農作物への影響と技術対策について

平成19年2月16日

福島県農林水産部

県内ではこれまで暖冬傾向が続いていますが、仙台管区気象台が2月9日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率がともに40%と予想されています。また、1月25日発表の3か月予報でも2～4月の平均気温は、平年並または高いと予想されています。

表：旬別の平均気温（平年差：アメダス地点）

	12/上	12/中	12/下	1/上	1/中	1/下	2/上
福島	4.9(-0.8)	5.4(+1.3)	4.6(+1.2)	2.6(+0.3)	2.9(+1.5)	4.4(+3.4)	4.3(+3.2)
郡山	4.1(-0.7)	4.7(+1.5)	3.6(+1.1)	2.1(+0.6)	1.7(+1.2)	3.4(+3.2)	3.6(+3.2)
白河	3.6(-0.7)	4.3(+1.5)	3.7(+1.8)	1.7(+0.6)	1.4(+1.4)	3.4(+3.7)	3.3(+3.3)
若松	3.2(-0.4)	4.3(+2.3)	2.5(+1.4)	-0.3(-0.5)	0.3(+1.0)	2.3(+3.3)	1.5(+2.3)
相馬	5.0(-1.1)	5.2(+0.9)	5.3(+1.5)	3.4(+0.8)	3.3(+1.7)	4.6(+3.4)	4.9(+3.5)
小名浜	7.3(-0.4)	7.9(+1.8)	7.4(+2.0)	5.5(+1.0)	4.9(+1.3)	6.6(+3.4)	6.3(+3.2)

暖冬にともない農作物の生育や病害虫の発生時期の前進化など、農作物への影響が懸念されますので、今後の気象情報等に注意し、技術対策の徹底を図りましょう。

【果樹】

（生育状況と農作物への影響）

- 1 県内では、小名浜のウメで10日程度早く開花がみられています。
また、会津地方の「高田梅」で花芽の一部に凍害の影響と考えられる花らいの壊死がみられています。
- 2 自発休眠が覚醒した樹種では、気温が高いほど発育は進み、耐凍性が低下します。
このため、2月から3月に低温に見舞われた場合は凍害のおそれがあります。
また、発芽や開花が早まる可能性が高く、晩霜害を受ける危険性が増加します。

（技術対策）

- 1 花芽の少ない園地や樹では、花芽の確保を図るため、せん定の際に枝をやや多めに残すようにしましょう。
- 2 モモやブドウなど耐寒性の劣る果樹では、着果負担をかけた樹や樹勢が衰弱した樹、苗木等に対して防寒対策を実施します。
防寒対策は、主幹部への稲わらや防寒マット等の防寒資材の巻き付け、白塗剤の塗布などがあります。ただし、積雪地帯において稲わらを巻き付けた場合はシルバーシートで覆うことが必要です。

- 3 暖冬年は重く湿った降雪が懸念されますので、支柱や棚の点検や補強を行うとともに、急な降雪時には、枝折れや樹幹損傷、棚の倒壊を防ぐため早めに除雪します。
- 4 防霜資材の確保など防霜対策の準備は早めに行いましょう。

【 麦 】

(生育状況と農作物への影響)

- 1 農業総合センターの調査では、生育は、郡山で平年より2日～5日早く、また、茎数が平年より多いほ場も見られます。相馬では、湿害等の影響により生育初期は遅れが見られましたが、ほぼ平年並に回復しています。
- 2 今後とも暖冬傾向で生育が進めば、幼穂形成期が早まり低温(- 2.5 以下)による凍霜害の危険が高まります。
また、暖冬の影響で、茎葉が繁茂しているほ場では、過剰生育による倒伏や品質の低下が懸念されます。

(技術対策)

- 1 踏圧
踏圧は、無効分げつの抑制、耐寒性の強化、倒伏防止、霜柱による根の浮上を抑えるといった効果があります。中通り及び浜通りで生育が進んでいる場合には、節間伸長開始前までに鎮圧ローラーなどを用いて踏圧を実施し生育を抑制します。
なお、節間伸長開始後の踏圧は、茎葉の損傷により耐寒性が低下するため実施しないでください。また、土壌が湿った状態で踏圧すると、土が固まって根の生育が悪くなり逆効果になりますので、土壌が乾いた状態で行いましょう。
- 2 追肥
幼穂形成期の追肥(穂肥)は、大麦では2月下旬～3月上旬、小麦ではアブクマワセが2月下旬～3月上旬、きぬあずま、ゆきちから、アオバコムギでは3月上旬～中旬に行います。追肥量は、倒伏し易いアオバコムギは窒素成分で1～2kg/10a、それ以外の大麦、小麦の各品種では窒素成分で3～4kg/10aですが、茎葉が繁茂しているほ場では、1kg/10a減肥します。
- 3 除草
ほ場全体に雑草の発生が確認されたら、すみやかに茎葉処理剤を散布します。
- 4 その他
降雨や融雪等による湿害を防ぐため、明きょや排水溝の点検を行いましょう。

【 野菜 】

(生育状況と農作物への影響)

- 1 イチゴ
(1) 促成栽培
気温が高く経過しているため、生育が全体的に進み、うどんこ病、炭そ病、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の発生が見られます。
また、早期に着色してしまい小玉化傾向や、生育がやや徒長ぎみとなっているほ場において、がく焼けや、チップバーンの発生が多くなっています。
- (2) 半促成栽培
収穫開始が早まっているほ場がある反面、低温遭遇時間が少ないため被覆時期が遅れ、全体的に収穫揃いになるのは2月下旬頃の見込みです。病害虫の発生では一部でアブラムシ類の発生が見られます。

2 葉菜類

- (1) 冬春ニラは、去年の株養成期間中の日照不足、長雨の影響等で株の充実が悪く、出荷数量が少ない産地もありますが、気温が高く経過しているため、収穫までの日数が短縮され、やや軟弱ぎみの生育となっております。
- (2) ホウレンソウは、生育がすすみ出荷量が多くなっています。
- (3) シュンギクは、1次側枝～2次側枝収穫中であり、側枝発生が良好です。
- (4) ネギは、黒斑病、べと病等の発生が見られています。

3 マメ類

サヤエンドウは、草丈が平年より伸び、生育が平年に比べ進んでいます。

(技術対策)

1 イチゴ

- (1) 気温が高いと生育、果実の着色が進むので、換気を図り温度管理に注意するとともに、収穫遅れにならないように適期収穫・鮮度保持に努めましょう。土壌乾燥にも注意し灌水により適正な土壌水分を保ちます。
- (2) ハウス内の温度が高くなり乾燥するとうどんこ病やハダニ類、アブラムシ類等の害虫の発生が多くなるので、初期防除に努めましょう。

2 葉菜類

(1) ニラ

収穫が遅れ規格外にならないように適期収穫に努めましょう。多湿条件では、トロケ症(腐敗病)の発生が多くなるので、換気を図りハウス内の温度管理に注意します。

(2) シュンギク、ホウレンソウ

ハウス内の温度管理に注意し、収穫遅れにならないように適期収穫に努めましょう。また、アブラムシ類、ダニ類等の害虫の発生に注意し、発生初期に防除しましょう。

(3) ネギ

黒斑病、べと病等の発生が認められ拡大の恐れがある場合には防除します。

(4) マメ類

サヤエンドウでは冬期に生育が進み、凍害を受けやすくなるので、防寒対策として、東西畦では北側に、南北畦では西側に土寄せします(風上片側)。また、株元に堆肥やもみ殻を敷きます。

(5) ハウス栽培(キュウリ、トマト等)

ハウス内温度、土壌水分管理に注意します。病害虫の発生も早まってくるので、早期発見、早期防除に努めましょう。

また、軟弱徒長ぎみの生育であると、寒気が入ってきた時には障害を受けやすくなるので保温に努めましょう。

(6) 露地野菜

病害虫発生が認められ拡大の恐れがある場合には防除します。

【 花き 】

(生育状況と農作物への影響)

暖冬のため、枝物サクラのつぼみが早く肥大し、一部で鳥の食害により開花がまばらになる等の影響は出ているものの、全体的に低温による生育抑制がないため、ほぼ順調に生育しています。

(技術対策)

1 施設管理

ハウス内の気温が高く、軟弱徒長となりやすいため、こまめな換気を行きましょう。また、ほ場も乾きやすいため水分管理に注意しましょう。

ハウス内に伏せ込んだキクの親株は、芽が伸びすぎる恐れがありますので、挿し芽の時期を考えて適切な温度管理をしましょう。また、アブラムシ等の病害虫管理にも注意しましょう

2 定植準備

今後定植を予定しているほ場については、苗の生育に合わせて、早めの準備を行いましょ

3 病害虫防除

通常越冬できない病害虫も、暖冬のため越冬することで春以降の被害拡大が心配されますので、ほ場内の残渣や雑草を適切に処理し、生育初期の防除を徹底しましょう。

また、未使用のハウスがあれば開放して、病害虫が越冬できないようにできるだけ低温にあてましょう。

【 飼料作物 】

(生育状況と農作物への影響)

牧草では、春先まで降雨不足が続くと生育が抑制されることがあります。

また、暖冬のため、秋に産卵されたムギダニの卵が多数越冬されることが予想され、孵化した個体が牧草に大きな被害を与えることが懸念されます。

(技術対策)

ムギダニの防除は、3～4月に牧草の株元付近を見て、赤い虫体を多数確認したら薬剤散布を行います。

薬剤は虫体にかからなければ効果が出にくいので、ムギダニの活動が盛んになる午後3時以降、または曇天時に散布するようにします。

病害虫の発生状況や防除情報については、
病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>）等を活用し、適切に対応してください。

気象情報については、「うつくしま農林水産情報ネット農業気象情報システム」をご利用ください。

なお、ご利用頂くためには下記ホームページからの登録申請が必要です。

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/kisho/weather2004.htm>